

研究・調査報告書

報告書番号	担当
3 5 8	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)	
Inappropriate use of symptom-triggered therapy for alcohol withdrawal in the general hospital. 一般病院におけるアルコール離脱のための Symptom-triggered therapy の不適切な使用	
執筆者	
Hecksel KA, Bostwick JM, Jaeger TM, Cha SS.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Mayo Clin Proc. 2008 Mar;83(3):274-9.	
キーワード	
アルコール禁断症候群、Symptom-triggered therapy、CIWA-Ar	
要 旨	
<p>入院および手術患者が、アルコール禁断症候群(AWS)のための Symptom-triggered therapy(STT)を不適切に受けさせられているかどうか、また、ある種の状況が不適切な STT の使用もしくは副作用とより関連しているかを調べること。</p> <p>患者と方法: 私たちは、Revised Clinical Institute for Withdrawal Assessment for Alcohol(CIWA-Ar) 2003 年プロトコルによって STT を受けたメイヨークリニック 495 人の入院患者のうちから 124 人 (25%)を無作為に抽出し、完全な言葉によるコミュニケーションができ、最近のアルコール使用の両方があるという定義をもとに、STT が適切かどうか評価した。アルコール中毒によるせん妄、発作、または死を含む有害事象は CIWA-Ar 使用の適切さと関連した。</p> <p>結果: 124 人の無作為抽出した患者において 60 人(48%)のみしか、両方の適格基準を満たさなかった。残った 64 人の患者では 9 人(14%)が飲酒者であったがコミュニケーションできなかった。また 35 人(55%)はコミュニケーションできたが飲酒者ではなかった。20 人(31%)はどちらの基準も満たさなかった。単変量解析では、不適切な STT の導入とは、慢性心不全、手術後の状態(POS)、肝疾患(LD)、nonmetastatic cancer、薬物依存の相談に有意な関連が見られた。多変量解析では LD(P=0.02)と POS(P=0.01)だけが有意な結果であり、LD ではより多くの、POS ではより少ない方が STT の適切な導入を予測していた。副作用を経験した 11 人中 7 人が CIWA-Ar プロトコル(P=.05)による STT を受けていた。単変量解析は副作用とアルコール依存歴もしくは AWS との有意な関連を示した。多変量解析はアルコール依存歴(P=.049)のみ有意な関連を示した。</p> <p>結論: CIWA-Ar プロトコルの適格基準の両方を満たすものが、無作為に抽出された患者の半数以下であったことにより、より厳しい評価が必要であると結論に至った。特に手術後、想定される AWS のために異なった説明が必要となるだろう。ヘルスケアの専門家はカルテ、親族および患者自身から、最近のアルコール使用の情報をより積極的に収集すべきである</p>	